

今月のkaizen

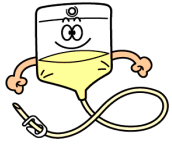
部署名 薬局



かいぜん、
いいね！

改善者: 神山 海太郎

☆改善テーマ☆



” **くすりのつまらん話** ”
～ 配合変化に注意する薬剤の払い出し方法 ～



☆原因や問題☆

輸液投与中に主ルートへ側管より薬剤を追加投与するとき、主ルート内で**配合変化**が生じ、それによりルートが**詰まる**などの注意を要する薬剤がある。その対応のために「フラッシュ」という手技が必要となるが、該当薬剤が多くあり、さらに使用する洗浄液が異なるため、現場で混乱が生じていた。

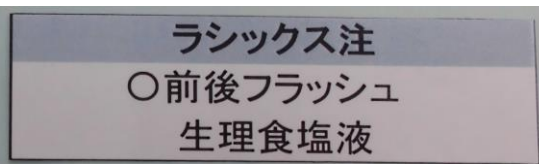
※ 「フラッシュ」⇒ 該当薬剤の投与前後に、生理食塩水やブドウ糖などを注入することでルート内の薬液を希釈・置換し、配合変化や詰まりを避ける手技のこと

☆対策や方法☆

- ① 配合変化が生じやすい該当薬剤（現在は15品目）に、「フラッシュ」の実施を指示するリマインダー（付箋：薬品名と洗浄液名を記入）を作成した。
- ② 注射薬剤とリマインダー（付箋）を一緒にセットし、払出すこととした。



ラシックス注20mg



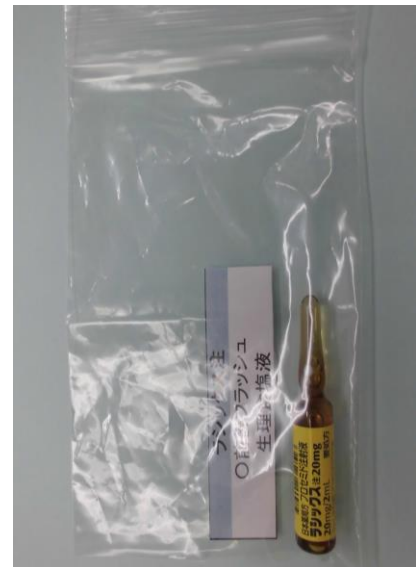
リマインダー（付箋）



① 該当薬剤(15品目)のリマインダー

アムピシリン点注 ○本剤はアルカリ性を呈し、pH等の変化により配合変化が起こりやすいので、他剤との混注は可能な限り避ける。 ○インジケータ（シリンジの錠剤が青紫～青色に黄色しているときは使用しない。 ○外袋開封後の使用期限 7日間 ○前後フラッシュ:生理食塩液	ケイソンN静注用10mg ○点滴静注: 遮光カバー ○点滴静注: 生理食塩液又は5%ブドウ糖液で希釈し、単独の点滴ラインで投与。 ○前後フラッシュ:生理食塩液	輸液に他の薬品を混注している場合は側管投与不可 前後フラッシュ:生理食塩液 イントラリポス輸液
ダントリウム注 調製時: 通常、1バイアルに注射用水60mLを加え、振り混ぜ、溶液が透明になったことを確認の後、使用。 溶解は、注射用水以外を使用しない。 混注を避け、単独投与。 投与時: 溶解時pHが高く(約9.5)、血管外に漏出した場合に壊死、腫脹、発赤等を起こすおそれがある。 保存時: 溶解後の保存は、6時間以内で使用。 前後フラッシュ:注射用水	ピソルボン注 他剤と混合 禁忌 ○前後フラッシュ:生食	アンカロン注 ○生理食塩液と配合しない(沈殿) ○同一ラインで他剤を注入しない ○前後フラッシュ:5%ブドウ糖液
オメプラール ○必ず単独で投与 ○生食、5%糖液で溶解 ○前後フラッシュ:生理食塩液	ラシックス注 ○前後フラッシュ 生理食塩液	アルプロスタジル注10μg ○持続投与は必ず単独ラインで投与 ○糖液以外の他の薬剤と混和しない ○前後フラッシュ:生理食塩液
フェジン注 ○前後フラッシュ 5%糖液	ソルダクトン ○単独で静注 (「ラシックス」のみ混合可) ○前後フラッシュ:生理食塩液	ハンブ注 ○必ず単独で投与 ○1バイアル当たり注射用蒸留水5mLに溶解し、生理食塩液、5%ブドウ糖液で希釈 ○生理食塩液で希釈した場合高濃度になると不薬物を析出 ○5%ブドウ糖液は高濃度でも不薬物を析出しない ○前後フラッシュ:5%ブドウ糖液
アレピアチン ○必ず単独で投与 ○1Aに対して生食100mL以下で希釈 ○前後フラッシュ:生理食塩液 ○静注は1アンブルにつき5分(50mg/分)以上かけて投与	注射用フサン10・注射用フサン50 ○原則として独立ルートで投与する ○やむをえず他剤と同一ルートを使用する場合は、ルート内に本剤や他剤が残留し混合されないよう5%ブドウ糖液により洗浄しルート間通過後の変化に十分注意する	バンコマイシン塩酸塩点注 ○必ず単独で投与 ○60分以上かけて点滴静注 ○前後フラッシュ:生理食塩液 ○禁止:ヘパリンロック(白色沈殿)

② リマインダー(付箋)と一緒に払出す様子



☆効果☆

フラッシュ手技施行のうっかり忘れ防止やフラッシュ手技内容の確認のための払い出しの工夫は、ルート内での配合変化や詰まりの防止に役立っている。